

I 令和5年度事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

当協会は、昭和23年8月に財団法人埼玉県消防協会として設立され、「消防思想を普及徹底し、消防諸施設の改善と消防活動の強化を図り、もって社会の災害を防止し、人類共通の福祉の増進に寄与すること。」を目的に活動している。

公益法人制度改革関連法の規定に基づき、平成24年4月1日付けをもって、公益財団法人埼玉県消防協会へ移行した。この移行と共に公益性をより高め県民の更なる安心・安全の確保を図り、福祉の増進に寄与することが求められている。

当協会の事業の内容は、地域の消防・防災活動の中核的な担い手である消防団員及び消防職員への支援を通じ、地域の災害の防止に貢献するための事業を行っている。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の法的位置図けが2類から5類に変更になったことから、従前の事業を実施しその概要は次のとおりである。

I 公益目的事業

1 表彰事業

- (1) 埼玉県自治体消防75周年記念式典（第75回埼玉県消防協会定例表彰式）

令和5年10月30日(月)鴻巣市文化会館（クレアこうのす）大ホールにて、消防団、消防団員及び企業など延べ41団体、2,494人を表彰した。

- (2) 死亡特例表彰

在職中に死亡した消防団員8人に死亡特例表彰を授与した。

2 慰霊祭事業

埼玉県消防協会消防殉職殉難者慰霊祭

令和5年11月27日(月)埼玉県防災学習センター北側慰霊碑前において、消防殉職・殉難者84柱の御霊に対する慰霊祭を挙行し、遺族及び消防関係者102人が参列した。

3 研修事業

(1) 消防団員基礎教育

埼玉県消防学校が行う教育訓練の現地研修修了者（概ね入団3年以内）で新入消防団員を対象とした基礎教育研修を支援した。

回数	実施日	受講者数(うち女性数)
第1回	令和5年11月19日(日)	15人(0人)
第2回	令和5年12月9日(土)	103人(7人)
第3回	令和5年12月16日(土)	88人(11人)
第4回	令和6年2月3日(土)	71人(6人)
第5回	令和6年3月2日(土)	111人(5人)
合計		388人(29人)

(2) 消防団員幹部教育(初級幹部科・指揮幹部科)

埼玉県消防学校が行う教育訓練として、消防団幹部を対象とした初級幹部科・指揮幹部科(現場指揮課程・分団指揮課程)の研修を支援した。

種別	実施日	受講者数(うち女性数)
初級幹部科	令和6年1月27日(土)	115人(5人)
指揮幹部科	分団指揮課程 令和6年2月17日(土)	72人(0人)
	現場指揮課程 令和6年1月12日(金) ～13日(土)	42人(0人)
合計		229人(5人)

(3) 住宅用火災警報器設置推進研修

消防団員を対象に住宅用火災警報器の設置率向上を目的とし、坂戸・鶴ヶ島消防組合消防本部の綿貫健一氏を講師に迎え、「住宅用火災警報器の設置率、維持管理、奏功事例等」について、Webによるオンライン研修を実施した。

実施日	時 間	受講場所	受講者数
令和5年 9月16日(土)	10時00分 ～11時30分	消防本部又は 市町村会議室等	164人

(4) 女性消防団員研修

女性消防団員を対象に避難所の運営を目的とした「HUG訓練（避難所運営ゲーム）」を実施した。

講師は、川越市消防団員で防災士の田中緑氏で、県内4消防団から5名の女性消防団員（川口市消防団員の大沼早苗氏、深谷市消防団員の遠藤美智代氏、三郷市消防団員の対馬代志子氏、川越市消防団員の岩崎敏子氏、渡辺美智子氏）が、講師補助を行い、県内女性消防団員が参加した。

実施日	時 間	開催場所	参加者数
令和5年 11月4日(土)	13時00分 ～16時00分	埼玉県 防災学習センター	79人

(5) 日本消防協会研修

日本消防協会主催による各都道府県から推薦された消防団幹部及び幹部候補生を対象とした特別研修に、各ブロックから推薦された団員を派遣した。

種 別	実 施 日	受講者数
消防団幹部特別研修	令和6年1月16日(火) ～1月19日(金)	第2ブロック 男性1人
消防団幹部候補 中央特別研修	令和6年1月31日(水) ～2月2日(金)	第1.3.4ブロック 男性3人
	令和6年2月14日(水) ～2月16日(金)	第1.4ブロック 女性2人

開催場所：東京都港区新橋一丁目 AP 新橋（貸会議室）

(6) 全国女性消防団員活性化事業

令和5年11月16日(木)石川県金沢市において、日頃の消防団活動や先進的取り組みについて全国の女性消防団員と情報交換、交流を深めることにより、幅広い視野と知識を習得し団員活動をさらに活性化させることを目的に「第28回全国女性消防団員活性化石川大会」が開催された。

この大会に本県から17消防団の女性消防団員等関係者64人が参加した。

(7) 消防団長等幹部研修会

消防団長等を対象に日本消防協会の出前講座により研修を実施した。

講師は、千葉県館山市の館山市消防団長 吉野隆志氏 で、「館山市消防団の活動について」として講演をした。

実施日	時間	受講場所	受講者数
令和5年 11月28日(火)	15時00分 ～17時00分	さいたま市浦和区 浦和ワシントンホテル	60人

4 普及啓発・活性化事業等

(1) 火災予防啓発活動

全日本消防人共済会の依頼を受け、県内の小中学校あてに防火ポスター及び防火防災作文の募集を行い、防火ポスターでは応募のあった12点、防災作文では応募のあった6点からそれぞれ2点を推薦した。

なお、全日本消防人共済会から提供のあった防火ポスター1,136枚を県内消防団等に配布した。

(2) 埼玉県防災講演会

県民を対象に防災意識の向上を図ることを目的に、災害リスク評価研究所代表の松島康生氏による防災講演会を県内3か所において実施した。

回数	開催場所	開催日	受講者数
第1回	川口駅前市民ホール (川口市)	令和5年 6月10日(土)	119人
第2回	小鹿野町文化センター (小鹿野町)	令和5年 7月16日(日)	176人
第3回	蓮田市総合文化会館 (蓮田市)	令和6年 3月10日(日)	190人

(3) 消防団員確保・活性化事業の推進

普及啓発・活性化及び団員の確保事業のとして、実施した各ブロックに対し10万円を上限として助成した。

助成金額 4地区ブロック 合計 400,000円

II 収益事業等

1 福利厚生事業

(1) 死亡弔慰金の交付

在職中に死亡した消防団員 13 人、消防職員 6 人の計 19 人の遺族に対して弔慰金を交付した。

(2) 育英支援金の給付

育英支援規程による、殉職消防職団員の遺児に対する育英支援金の給付を行っている。

なお、令和 5 年度は、該当なしであった。

(3) 消防団員等福祉共済

公益財団法人日本消防協会による、消防職団員を対象とした消防団員等福祉共済の加入給付手続を行っている。

令和 5 年度は、遺族援護金 16 件、障害見舞金 0 件、生活援護金 1 件、入院見舞金 156 件、合計 173 件で総額 21,065,000 円を給付した。

(4) 消防団員健康増進事業

消防団員の健康増進等を支援するため公益財団法人日本消防協会の消防団員等福祉共済事業による助成を受け、健康増進器具等の経費の一部を助成した。

助成金額 64 消防団等 1,192,070 円

(5) 消防個人年金等事業

ア 消防個人年金への加入促進

消防職団員等がゆとりある将来、安定した将来に備えるため、公益財団法人日本消防協会が実施する消防個人年金制度の加入促進を図った。

イ 火災共済制度の加入促進

消防職団員等の不慮の災害による損害を補填するため、生活協同組合全日本消防人共済会が実施する火災共済制度の加入促進を図った。

III 役職員に関する事項（令和 6 年 3 月 31 日現在）

1 役員数

役 職 名	常 勤	非 常 勤	備 考
会 長	0	1 人	代表理事
副 会 長	0	4 人	理事
理 事	1 人	1 7 人	専務理事 1 人、常務理事 1 人含
監 事	0	4 人	市会計管理者 2 人、消防団長 2 人
評 議 員	0	1 6 人	消防団長
計	1 人	4 2 人	

(注) 同一親族等特別な関係にある者の理事等の役員に占める割合 0 %

2 事務局職員数

- ・ 常務理事兼事務局長 (常勤) 1 人
- ・ 次 長 (常勤) 1 人
- ・ 主 査 (常勤) 1 人
- ・ 書 記 (非常勤) 1 人

3 組 織

(1) 役 員

会 長(1) 森田耕一(團長)

副会長(4) 金久保繁(團長)、高橋光晴(團長)、菅岩良司(團長)、大泉隆司(團長)

理 事(18) 専務理事(1)、常務理事(1)

埼玉県危機管理防災部長、市長会(2)、町村会(2)

消防長会(1)、団長(10)

監 事(4) 市会計管理者(2)、団長(2)

評議員(16) 団長 (16)

4 その他

附属明細書

「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。